して，とても明るく，たくましく見えた。

9月11日の校内水泳大会では，「25mクロール」を泳ぎきった。学級全員が拍手すると，S子ははずかしそうにしながらも，うれしそうに手をあげてこたえた。担任は，さっそく，S子のがんばりを母親に伝えた。

担任「S子さんがんばりましたよ。お母さんの『S子ガンバレ』という声援が届いたんですよ。」

母親「いいえ，先生の指導とS子の努力です。夏休みに毎日，プールに行ってましたから。私もつい一緒に泳ぎました。そしたら，あの子ったら，『お母さんと一緒だと楽しい』なんて言って・・・勉強の方もがんばって欲しいです。」

担任「S子さんは見違えるように変わってきましたよ。宿題も忘れずにやって来るようになったんですよ。大丈夫です。S子さんをもっともっと信じたいですね。」

母親は，何度もうなずいていた。

積極的になったS子

水泳でのがんばりは学習面にも現れてきた。苦手の算数の授業でも挙手するようになった。答えがまちがっても悪びれず，自信が感じられた。かつての劣等意識は薄れ，積極的なS子になっていた。さらに，11月下旬のマラソン大会を目指し，毎日，放課後，4～5人の友達と練習を続けている。11月20日，「私のうれしかったこと」と題した作文で，S子は次のように書いた。

> わたしの家は，お父さんが遠いところで働いているので，お母さんと兄とわたしの3人です。わたしのお母さんは内職で忙しそうなので，時々，わたしも台所でお母さんの手伝いをします。すると，お母さんは「助かるね」と言ってくれます。ほめられると，ついつい「あしたも，手伝ってあげよう」と思います。勉強も一緒に見てくれるので，お母さんが大好きです。
>
> 私の学級は，明るくて元気な人がたくさんいます。私は，初めは，いやがらせをする人がいたので，この学級がいやでした。でも，この頃は，どうしてかこの学級が好きになってきました。先生がいろいろなゲームをしてくれるので，みんなが仲良くなったのだと思います。
>
> 水泳で，わたしががんばった時，あんなにほめてもらえたなんて，生まれて初めてでした。とてもうれしかったです。

5 考　察

この事例においては，当初，「集団不適応」を予測して本人・学級へのかかわりをより意図的に行った。しかし，長兄の死がきっかけとなって「不登校」に陥ることが予測された。そのため，学級でのかかわりを強化し，母親と担任との信頼と協力による積極的なかかわりから，「不登校」を未然に防いだものである。

指導援助の過程で一次予測診断をさらに**フィードバック**して，二次予測診断をしたことは，適切な予防援助をする上で有効であった。なお，具体的な変容として，次のことが上げられる。

(1)　S子の変容

母親と担任の**「S子の気持ちを理解し，温かくかかわっていこう」という姿勢**は，S子にとって，情緒の安定を図る上で，大きな支えになったと言えよう。さらに，係の仕事を責任持って成し遂げた**成就感**と，周りから認められることによって得た**存在感**と自分への**自信**が問題行動の発生を抑制する大きな要因となった。

(2)　学級の変容

「ふれあいの時間」を通した学級での人間関係づくりから，**相互支持的な雰囲気**が生まれ，互いに認め合い助け合える関係ができた。

(3)　家庭の変容

担任の**家庭訪問における適切な指導援助**は，親子のふれあいや生活リズムの改善につながり，母親のS子に対する**気づき**を深めた。こうした母親の意識の変化は，S子の勉強を見てやる姿や一緒に水泳をする姿にも現れている。